

JA共済連と早稲田大学が共同で開講している寄附講座が6年目に突入

～ 本年度は学生による東北の食ブランドの＜発掘＞を目指す ～

2017年4月17日

JA共済連(全国共済農業協同組合連合会)と早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(以下WAVOC)は、2012年度より、農村地域の経済・社会と東北沿岸部の震災復興へのアプローチをテーマとする2科目(半期の講義型、通年の現地実習型)の寄附講座を開講しています。

講義では農村地域の経済と社会について体系的に、現地実習では学生自らが被災地に赴くなど実践的に学ぶことにより、震災の影響を受けた農村地域の諸問題について考える機会を提供します。また、現地の方々と共に考え協働することで、都市部と農村地域の交流・連携による農や食の理解促進を図ります。

JA共済連ならびにWAVOCでは、本講座を通じて、学生たちが農業・農村が抱える諸課題や被災地の現状について理解することを期待します。

1. 過去の成果と実績

本寄附講座は、2012年の開講以来、これまで約1700名の早大生が受講しています。

特に現地実習を中心とした「東北復興のまちづくり」講座では、学生の復興支援に対する提言が自治体に採用されたほか、食を起点にした復興支援活動の一環として、被災地域の特産品を大学近辺の飲食店に向けて紹介し、これを活用した特別メニューを提供する『東北キッチンat早稲田』を開催するなど、大学の講義の枠を超えた活動を行っています。

2. 2017年の講義内容

JA共済寄附講座 農の未来風景 (講義)	
期間・規模	2017年4月～2017年9月 [半期] ・定員400名程度
内 容	本講座では、日本の農業・農村を取り巻く環境を「我が事」として捉える目を養うことを目的としています。専門分野のゲストをお招きし、農業政策の展開と現状やJAの役割や共済・保険の仕組みと機能、地域での取り組み等様々なテーマについて講義を受けた後、班ごとに討論を行い、自分たちの考えをまとめていくという形式で授業を展開します。

JA共済寄附講座 東北復興のまちづくりー農からの地域創生ー (現地実習)	
期間・規模	2017年4月～2018年3月 [通年] ・定員40名程度
内 容	本講座では、東北沿岸部において合計3回の現地実習を行うことで復興状況を把握し、そのうえで、学生ならではの新鮮な視点で、新しい東北のまちづくりを＜農＞＜食＞から考えます。6年目を迎える2017年度は、「復興の＜実感＞と産地ブランドの＜発掘＞」をテーマに、より一層学生の問題意識や知識欲求に応えうる内容としています。 また、本年度は新しい試みとして東京において、『東北マルシェ』イベントの開催を予定しており、地域・生産者の方々との連携を強化して取組みます。さらに、現地調査に訪れた地域での取組みや、地元の方へのインタビュー、『東北マルシェ』の様子などをまとめ、ブックレットを作成する予定です。

＜参考＞ 2016年度の製作物



『おいしいを訪ねて 東北復興のまちづくり リーフレット』の一部

『おいしいを訪ねて 東北復興のまちづくり リーフレット』（5冊組）

・・・2016年度「東北復興のまちづくり」講座の現地実習で訪れた地域の現状や課題、現地の方へのインタビューを5つの実習地域を紹介するリーフレットとして作成しました。作成編集作業も、学生自らが行いました。

以 上